

# 米CPIは市場予想を下回り、5カ月連続で鈍化

## ポイント① 米CPIは5カ月連続で鈍化

12月13日に発表された11月の米CPIは前年同月比7.1%上昇と、5カ月連続で伸び率が鈍化し、ピークアウトを示唆する内容となりました。また変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは同6.0%上昇となりました。項目別では、前年同月比でエネルギーは13.1%上昇、食品は10.6%上昇、財は3.7%上昇と、それぞれ伸び率が10月よりも鈍化、ガソリン価格や中古車など幅広い品目で鈍化が確認されました。一方、サービスは同6.8%上昇と10月から鈍化する動きはなく、構成比が大きい住居費が7.1%上昇と引き続き高い伸びとなりました。

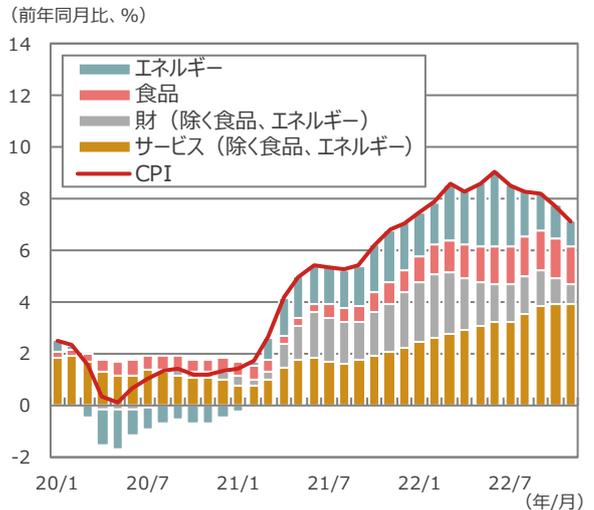
## ポイント② 住居費には目処、賃金が鍵を握る

これまでインフレ鎮静化を遅らせる要因として、住居費が注視されてきましたが、11月30日の講演でFRB（米連邦準備制度理事会）のパウエル議長はインフレ見通しについて言及、財価格と住居費には目処が立ってきたという見解を示しました。一方、住居費を除くサービス価格は賃金に影響され易く、労働市場のひっ迫が大きく緩和しない限り、減速する可能性は低いとし、賃金インフレへの警戒を強めました。米労働市場では賃金上昇圧力が高いことから、今後のインフレ動向は賃金が鍵を握ります。

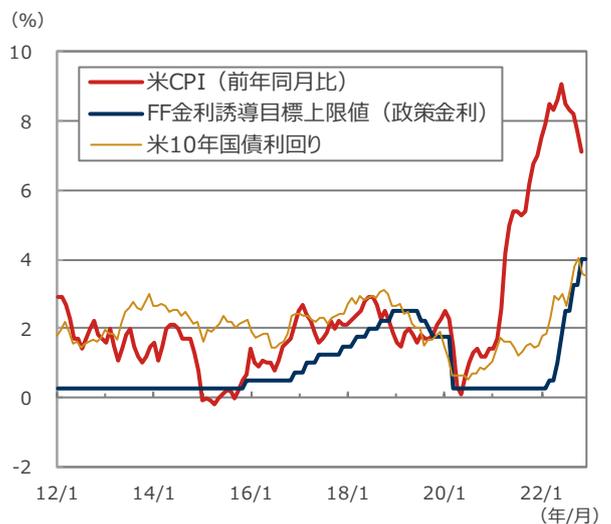
## ポイント③ FOMCメンバーの経済見通しに注目

CPI発表後、13日の米10年国債利回りは前日比で低下、円相場は一時1米ドル＝134円台まで円高・米ドル安が進みました。市場は12月と来年2月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げペースが減速することを期待しているようです。明日のFOMCで発表されるFOMCメンバーによる経済見通しやパウエル議長による記者会見に注目です。

## 米CPI（消費者物価指数）の項目別寄与度



## 米CPIと政策金利、米10年国債利回り



重要 イベント	12月14日	米金融政策発表
	12月15日	米小売売上高（11月）
	12月23日	米PCE（個人消費支出）デフレータ（11月）